

科目名	担当教員名	学期
ビジネスアカウンティング Business Accounting	小関 誠三	前期
目的	財務諸表の作成ないし利用のための基本的な会計概念や経営指標を、各社の公表財務諸表等の分析を通じて習得することを目的とする。	
概要	経営指標は財務諸表から得られるデータの相互関係から算出されるものであり、財務諸表がどのように作成されるのかを理解しなければならない。したがって、まず受講生の関心に基づいて、特定の会社の財務諸表を各社ホームページ、EDINET などから入手し、当該会社の財務諸表の作成手法を理解する。これを受けて、つぎに財務諸表の構成要素ごとに業績判断をするための経営指標の意味を理解するとともに、特定の会社について業績評価を試みる。なお、IFRSs (国際財務報告基準)と日本の企業会計基準とによる業績評価の相違についても言及する予定である。	
到達目標	財務諸表の作成原理ならびに業績評価を行うための基本的な経営指標の意味を理解するとともに、財務諸表の分析結果を効果的なプレゼンテーションに結び付けることができること。	
成績評価の基準と方法	授業への参加・貢献度：15% プレゼンテーション：25% 課題・最終テスト：60% なお、授業への出席を前提として授業への貢献があることを銘記されたい。	
履修条件	基本的な会計関連諸科目を修得済みであること。	
<b>授業計画</b>		
第1週	【財務諸表の作成原理】 ☆イントロダクション 財務諸表の開示制度と意義	
第2週	財務諸表の構成 財務諸表の構成要素、P/L、B/S及びCF/Sのそれぞれの役割について概説し、それらの関連性について理解する。	
第3週	財務諸表の作成原理 会計機能としての利害調整および意思決定有用性の観点を前提に、収益費用アプローチから資産負債アプローチへの重点移行による財務諸表の作成原理について考察する。	
第4週	個別財務諸表と連結財務諸表 財務諸表に現れる特定の項目について企業間の比較を試みる。	
第5週	情報開示の様式 受講生が関心を持つ企業の決算短信、四半期財務諸表および年次財務諸表などを入手し、情報開示の様式を確認する。	

第 6 週	財務諸表の業種別特徴 財務諸表の構成項目の比重は業種によって異なる。特定企業の経営形態をこのような特徴によって理解する。
第 7 週	会計方針の選択と業績評価 特定企業の事例を用いて、会計方針の選択が業績評価に及ぼす影響について検討するとともに、諸外国の企業の事例と比較する。
第 8 週	IFRSs(国際財務報告基準)と業績評価 IFRSs による業績評価の影響について考察する。
第 9 週	☆まとめと確認 業績評価における会計処理基準のポイントを確認する。
第 10 週	<b>【財務諸表の分析】</b> 総合指標による業績分析
第 11 週	P/L および B/S 分析のための経営指標
第 12 週	キャッシュフロー計算書の分析とその意義
第 13 週	セグメント情報による業績測定と比較
第 14 週	財務比率による総合的な業績評価の試み これまでの分析手法を用いて、特定企業の総合的な業績評価を試みる。
第 15 週	☆まとめとプレゼン 特定の企業を対象とする経営分析のプレゼンテーションを行う。
テキスト 参考書等	<b>【参考書】</b> ・『経営分析の新展開』石内孔治著（森山書店、2012年） ・『ゼミナール 現代会計入門』伊藤邦雄著（日本経済新聞出版社、2012年） ・『財務会計—財務諸表分析の基礎—』斎藤静樹 編著（有斐閣、2009年） ・『経営分析』青木茂男著（森山書店、2005年） ☆ 上記以外は、テーマごとに指示する。
その他 特記事項	<b>【予習】</b> 指示される特定企業の財務諸表を EDINET から入手し、当該会社の財務諸表の特徴を把握しておくこと。 <b>【復習】</b> 予習の対象企業と同業他社企業との比較・検討を行い、プレゼンに結び付ける準備をしておくこと。 * 受講人数によって大幅な変更を行う場合がある。したがって、受講希望者は必ずガイダンスに参加すること。